

## 令和3年度2月全校朝礼（高校）

現在、再び新型コロナウイルス感染拡大となり、深刻な状況です。感染者も急激に増えています。3学期も試練の時となってしまいました。オミクロン株は重症にはならないと言われていたのですが、残念ながら実際には、引き続き重症者も出ていますし、亡くなる方もいます。検温、手指消毒、マスク着用を引き続き徹底し、乗り越えていきましょう。私たちにとって、まだ我慢の時が続きますが、このような状況の中で、受験に向かって頑張っている3年生もいます。本当に大変であると思います。心からエールを送りましょう。

さて、今回一つの数字を挙げます。まず、40.5%です。そして、44.9%は2年前の数字です。もう一つ、60.2%、65.9%が、やはり2年前のものです。実は、これは全国学力・学習状況調査における数字です。その調査の中で、「将来の夢や目標を持っていますか」の答えに対し、「当てはまる」と答えた人の割合です。40.5%が中学生、60.2%が小学生の回答です。

残念ながら、夢や目標を持っている小中学生が減っているのです。また、「学校に行くのは楽しいですか」という問いに対する答えも「当てはまる」は、中学生で2%、小学生では6%減っています。これは、コロナ禍であること、しかもこの時点で、約1年半の期間、制限された生活を強いられたことが原因であることは否めません。しかし、急激に時代が変化し、先の見えない時代と言われていています。さらに、こここのところ人と上手くつながれず、深い孤独感から自分を見失って起こす事件が目立っており、学校でも全国的にいっこうに減らないじめやSNSの問題等を考えると、それだけとは言い切れなんでしょう。

では、どうしたら夢や目標を持てるようになるのか、また、どのような行動や考え方が学びを楽しくさせるのか、これは中々難しい問題です。人それぞれ価値観が異なっていて、誰かにとっては良くて、誰かにとっては良くないということもあるでしょう。

しかし、私たちは日々、懸命に生きていく中で、それぞれが答えを見つける時が来るのです。皆さんに以前、スティーブ・ジョブズの話をしました。有名なスピーチで3つのことを話していましたが、覚えているでしょうか。1つ目は「点と点をつなげる」、一見、無駄に思えることでも、どこかで大切な役割をすることがある、2つ目が「愛と敗北」、自分が立ち上げ、大きくした、しかも最高の地位にいましたが、アップル社から追い出されます。しかし、その間、奥さんにも出会い、2つの会社を成功させ、アップル社に復帰します。3つ目を、まだ話していませんでした。それは、ジョブズ氏は、33年間、毎朝、鏡に映る自分に “If today were the last day of my life, would I want to do what I am about to do today.” — 「もし今日が最後の日だとしても、今からやろうとしていたことをやるだろうか」と問いかけていました。もし「違う」という答え

が何日も続くようなら、生き方を見直せということである、と、思って問いかけていたのです。

そして、そうであるために最も大切なことは、自分の勇気と意思に従う勇気を持つことであると言っています。そして、「全地球カタログ」という最終版の背表紙に早朝の田舎道の写真が載り、そこに“Stay hungry, Stay foolish.”と書かれている文にいたく感動し、自分もそうありたい、皆もそうあってほしいと学生たちに訴えかけるのです。

皆さんの人生はこれからです。これからの考え方や姿勢、踏ん張りでも自分を变えていくことはできます。そのためにも、「学ぶこと」が大切です。学ぶことは、当然、日々の学校生活、学校行事、部活動からの学びもありますが、基本は授業、学問です。ある中学校の校長室を訪ねた時、額に入った文字がどうも気に入り、学校に戻って調べたところ、「荀子に曰く 夫れ学は通のために非ざるなり。窮して困しまず。憂えて意衰えざるが為なり」—「荀子が言った。『学問は立身出世といったもののためにあるのではなく、窮してもくるしまず、憂いがあってもところが衰えないためである』」という意味でした。荀子は中国の昔の思想家で、性悪説を唱えたことで有名な人です。「窮する」とは行き詰まってどうにもならなくなること、「憂い」とは思うようにならず、つらいことです。つまり、「学問は行き詰まってどうにもならなくなっても苦しまず、思うようにならず辛い時も心が衰えることがないためにするものだ」という意味になります。「何のために勉強するのかなあ」と感じた時「心を強くするため」と信じて頑張る挑戦してみてもどうでしょうか。

実は、その状況調査の質問に対する答えの中で、一筋の光明と言えるものがありました。答えが中学生で、34.4%から41.4%と、7%も上がっているのです。その質問は、「人が困っているときは、進んで助けますか」。おそらく、こうした大変な状況であるから、人は助け合わなければいけない、医療従事者が献身的な働きをしてくれている、皆が不安、場合によっては恐怖を感じる中で、互いに声を掛け合ったり、ネットを通して情報交換をしたりすることの大切さ、つまり、つながっていることの有り難さを感じているのかもしれない。ここに人を幸せに、そして日々の生活を楽しくする素があると私は思っています。